

協議事項3 今後の公共交通について

(1) 現行での改善・工夫

課題	比較	検討結果
停留所の環境整備（ベンチ・上屋の設置）	利点	・バスを待つ間の環境を整備することで、利用者の負担を軽減できる
	難点	・補助金等がないため、町の財政負担が増大することになる
自由降車	利点	・目的地に近い場所での降車により、利用者の負担軽減及び防犯の面で効果がある
	難点	・路上に停車することで視界が悪くなり、追い越しによる事故を誘発する恐れがある
沿線施設・各種団体への案内掲示	利点	・事前に情報を掲示することで、時刻表を「調べる」ハードルを下げ、利用者増加を図ることができる ・住民の公共交通への関心を高める効果がある
停留所の移設・増設・休止	利点	・利用者のニーズに対応した変更は、利用者の増加につながる可能性がある ・利用率の低い停留所を休止にすることで、ルート変更による運行時間の短縮が図れる
	難点	・将来的に利用を考えている潜在的利用者の利用を阻害する恐れがある
課題	比較	検討結果
運行ルート・ダイヤの見直し	利点	・乗車時間の短縮による乗客の負担軽減 ・調整次第で増便できる可能性がある ・他の公共交通（鉄道、路線バス）との調整により、乗り換えによる利便性が向上する
	難点	・定着しつつあるルートを刷新することは、利用者の混乱を招き、利用者数を減らす恐れがある ・ダイヤ改正の度に時刻を変更すると、利用者の混乱を招き、利用者数を減らす恐れがある ・利用者の満足度が低下する恐れがある

(2) 運行形態の検討

課題	比較	検討結果
バス＋デマンド（フルデマンド）	利点	・需要がある場合のみ運行することで、運行の効率化が図られ、経費節減と環境美化に効果がある
	難点	・実態として乗り合いが発生しないことが多く、経費が増大する
バス＋タクシー	利点	・バス停までの移動手段を確保することによる利用者の負担を軽減できる
	難点	・補助金等がないため、町の財政負担が増大することになる
定時定路型バスの継続	利点	・経費を増大させず、利便性を向上させることは、持続可能な公共交通を構築することに繋がる ・子供への交通教育に寄与する
	難点	・利用者の急激な増加は望めない